

# そらうがく

(No. 79)

R7.3.3 発行

現職研修委員会

総合的な学習部編集



## 改善・充実に向けた小さな一歩

総合的な学習部長 夏山小学校 川本 祐二

昨年末の十二月二十五日、文部科学大臣から中央教育審議会に対して「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」の諮問がなされた。いよいよ次期学習指導要領に向けた改訂作業がスタートしたことになる。この諮問理由の中で、

質の高い探究的な学びを実現するための「総合的な学習の時間」の改善・充実の在り方をどのように考えるか。その際、情報活用能力の育成との一体的な充実や教科等横断的な学びの充実をどのように考えるか。

という項目が挙げられている。やはり、総合的な学習の時間の改善・充実、次期学習指導要領への展望において、重要な位置を占めていると言えよう。一口に改善・充実と言っても、実践ベースでは、さまざまな課題がある。本校においても、昨年度、アフターコロナの再構築が必要な中で、実践が思うように進まなかった反省に立ち、本年度は当初から小さな改善を試みてきた。恵まれた自然環境と地域密着型の本校の特色を踏まえ、改善・充実のためのポイントを次の三点に整理し、手だてを講じた。

- ① 全校体制のカリキュラム・マネジメント
- ② 探究の芽となる体験的な活動の充実
- ③ 地域との連携の強化（コミュニティ・スクールも視野に）

まず、教科担任制による日課表上の制約の中で、各教科等の配置を工夫し、担任裁量で二こま以上を連続で行えるようにした。週一こましかない中学年も、隔週での二こま連続授業を奨励した(①)。これにより、座学中心ではなく、たつぷりと体験的な活動に取り組めるようになった。また、三〜六年生の異学年合同授業も取り入れ、ダイナミックな体験的活動を行えるようにした(②)。さらに学校通信での広報、学校評議員会での相談等により、地域からの協力を得られるような環境づくりに努めた(③)。

このような手だてのもと、本校の特色である夢山活動を年間計画に沿って段階的に進めてきた。一学期には実態調査と美化活動、二学期には「夢」を描く旗作りと掲揚、三学期には地域講師の協力によるMy丸太いす作りと遊具の補修に取り組んでいる。総合的な学習は、特色ある学校づくりと密接に関わる重要な教育活動であるが、手をこまねいているだけでは何も進まない難しさがある。中には授業者の努力や工夫だけでは如何ともしがたいこともある。そのため、学校全体としてどのように総合的な学習

を推進するかという議論や具体的な手だてが必要となる。本校も途に就いたばかりであるが、一歩でも前進できるように実践を進めてまいりたい。

## 本年度の指導員訪問報告

生活総合指導員 藤川小学校 酒井 智之

地域の「人・もの・こと」を生かした、ダイナミックな単元を構想された先生方がいらつしやいました。ここでは、地域素材を効果的に活用し、子供が学習課題を自分事として捉えられるように授業を展開された先生方の実践を紹介させていただきます。

A 中学校の B 教諭は、過疎化が進む学区を活性化させるための方法について考える授業を行いました。前時に招いた町総代の話をまとめた資料を提示し、人口増加と環境保全の両立を目指すことを意識付けられたため、子供は地域の観光資源や自然環境を生かし、より自分たちの学区に合った人口増加策を考えることができました。また、C 小学校の D 教諭は、学校林の再生を教材化されました。学校林に愛着がもてるよう、何度も足を運んでよさを体感した上で再生させるための方法を考えるよう促したため、子供は自分たちの学校林を再生させたいという強い気持ちをもって学習に取り組むことができました。チーム学習は、個別最適な学びを子供に提供することを主眼としています。誰一人取り残さないことはもちろんですが、個の思考を深めることも意識したいと考えます。今後は、共有した情報を個で整理・分析するため視点や方法の与え方について助言することを心がけてまいりたいと思います。

## 第二・三回岡総研の報告

第二回岡総研では、岡崎市教育研究所教育アドバイザーの金指由香里先生より、次期学習指導要領の動向について教えていただきました。また、教師としての在り方として、子供だけではなく、教師も自己評価し、スパイラルアップしていくことが大切であることをご教授いただきました。

第三回岡総研では、中京大学久野弘幸先生より、学習指導要領改訂におけるキーワードから、これからの教師に求められる資質・能力について教えていただきました。これからの授業の在り方として一斉型授業だけではなく、「個別最適な学び」と「協働的な学び」へのシフトが求められているとのことでした。私たち教師が、子供たちを見取る力はもちろんですが、子供たちが自分自身を見取り、調整する力も求められていくのではないかと感じました。

そして、毎回白熱する座談会では、二・三回とも変わらず、設定時間を忘れるほどの話し合いが行われました。その中でも特に、職場体験をどう扱うのか、キャリア教育は体験するだけでよいのかという話題が印象的でした。また、「人生百年時代」を生きる子供たちが、予測困難な時代でたくましく道を切り開くための糧になるようなまとめ方について意見を重ねました。最後は、人に触れ、多くの価値観に触れ、自分をこれからどう磨くのかを考えることの大切さについて考えを深めました。

## 学び舎の 総合耳寄り情報

五年生は、「服のチカラプロジェクト」というテーマで学習を進めました。ユニクロの方々が来校し、世界中に服を必要としている子供たちがいることを知りました。その子供たちに服を送りたいという気持ち、新聞や呼びかけで全校に発信して、服を集めました。結果、多くの服を集めることができ、集めた服を種類ごとに仕分けて、発送することができました。五年生の児童も、協力をして世界の子供たちのために自分にできることをする喜びを学ぶことができました。



常磐小学校 伊藤 優希

二年生のキャリア教育の一環で、三浦太鼓さんゲストティーチャーとしてお招きし、「働くとは」というテーマのもと、講話をしていただきました。仕事に就こうと思ったきっかけや仕事をする上で大変なこと、大切にしていることを聴き、自分たちにはない価値観や考え方に生徒たちは感銘を受けていたようでした。



額田中学校 田中 大貴

六年生は、「わたしたちがつむぐ『糸・伝統・想い』という単元で三河木綿について学習しました。実際に校内で綿花を栽培し、糸をつむいでミサンガ作りをしました。体験活動を通して、伝統を継承する難しさや、三河木綿の魅力について学びました。



竜美丘小学校 柵木 美緒

本校の六年生は、「光る矢南へ」と題し、学区の防災に目を向けて活動してきました。児童は、通学路が水に浸かるなど、実体験から水害による被害が起きやすい地区を知っています。そこで、市の防災課の方を招き、体育館に設置されているファーストミツションボックスを使用する体験を行いました。こうした経験が、活動内容を他学年に伝えようという意欲を高めることにつながりました。



矢作南小学校 海藤 健児

二年生は、キャリアについて学習しています。立志の式では、自分史の作成を通して、自分が目指す姿を言葉で一人一人表現し、その思いをバールンに付けて運動場でリリースしました。今日という日が、一人一人の節目となって大きく成長することを願っています。



南中学校 今枝 亮太